

令和5年度 自己評価結果表【タイプB】

項目		自己評価結果(人)			職員の工夫・現状や改善案	
		A	B	C		
I 養育・支援の基本方針と組織						
共通 評価 基準 45 項目	1	(1) 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている	13	8	1	ホームページに記載されているが、職員に対して説明不足。
	2	(1) 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が適確に把握・分析されている。	7	11	3	よくわからない。情報が少ない。
		3 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	6	9	6	よくわからない。情報が少ない。
	3	(1) 4 中・長期的なビジョンを明確にして計画が策定されている。	8	9	5	HPに掲載してある。説明されたことがない。
		5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	9	8	5	年度初めに説明があるが、周知が不十分。
		(2) 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	5	7	10	よくわからない。
	4	(1) 7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	6	7	9	事業計画について保護者に説明は行っていない。
		(1) 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	8	10	4	研修で学ぶ機会はある。
		9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している	9	8	5	課題や改善策が明確化されていない。
II 施設の運営管理						
共通 評価 基準 45 項目	1	(1) 1 0 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている	12	7	3	
		1 1 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	13	5	4	施設長研修に参加し、職員会議等で報告している。
		(2) 1 2 養育・支援の質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	9	8	5	
	2	(1) 1 3 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	8	9	5	
		(1) 1 4 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	6	6	10	人員確保に取り組んでいるが、定着に繋がっていない。
		1 5 総合的な人事管理が行われている	5	8	9	中途退職者の補充が困難。
		(2) 1 6 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	5	9	8	対人職である以上、職員のメンタルヘルスの場も必要。
		(3) 1 7 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	6	11	5	外部研修に参加する機会がある。
	1 8 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	14	8	0	オンラインでの研修も実施されている。	

共通 評価 基準 45 項目	(4)	1 9 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	15	7	0	研修への参加を積極的に勧めている。	
		2 0 実習生の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取り組みをしている	6	15	1	保育士養成校からの実習を受け入れている。	
	3 (1)	2 1 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	7	10	5	ホームページに記載されている。	
		2 2 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	5	12	5	適正かどうかはわからない	
		2 3 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	16	6	0	地域の行事に参加している。	
		2 4 ボランティア等の受入に対する基本姿勢を明確にし体制を確立している	16	6	0	学習ボランティアの受け入れ等がある。	
	(2)	2 5 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	11	11	0	学校・病院・児童相談所等の関係機関との連携を図っている。	
		(3) 2 6 地域の福祉ニーズ等を把握するための取り組みが行われている。	9	6	6	行政、学校、地域自治会などから情報を収集している。	
		2 7 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。				公益的な活動は行っていない	
	III 適切な養育・支援の実態						
	1	(1)	2 8 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	11	10	1	定期的にケース検討会等で共有し、対応について多面的に検討されている。
			2 9 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	14	8	0	子どもの権利擁護についての研修を実施して理解に努めている
		(2)	3 0 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	8	10	4	支援学級の必要性については
3 1 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。			9	10	2	一度では理解できないので、繰り返し説明をするよう心掛けている。	
3 2 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。			12	8	0	家庭復帰後も継続して支援を行っている。	
(3)		3 3 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	11	9	2		
(4)		3 4 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	12	10	1	意見箱の設置。	
		3 5 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	15	7	0	ホーム会議で周知している。	
(5)		3 6 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	13	8	1	意見箱の投書には施設長が対応している。	
		3 7 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	11	9	2	ヒヤリハット・事故報告など情報収集に取り組んでいる	
	3 8 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	18	4	0			

共通評価基準	2	(1)	3 9 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	17	5	0	毎月避難訓練を実施して課題の改善・対策を検討している。
			4 0 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	5	9	7	文書を見たことがない。
			4 1 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	6	10	5	
		(2)	4 2 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	16	6	0	入所前や家庭の情報が不足しており適切な策定とはいえない。
			4 3 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	13	9	0	
		(3)	4 4 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有されている。	17	5	0	
			4 5 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	18	4	0	
内容評価基準 24 項目	A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援						
	(1)	A1 子どもの権利擁護に関する取り組みが徹底されている。	12	9	1	こどもの権利擁護について園内研修を行っている。	
		(2)	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	8	13	1	
		(3)	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちをふり返る取組を行っている。	6	11	5	必要なことについて、年齢に応じた説明をしている。
			(4)	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	11	6	3
		(5)	A5 こどものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている	12	7	2	アフターケアが不十分。
			A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリーピングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	10	7	3	アフターケアが不十分。
	A-2 養育・支援の質の確保						
	(1)	A7 子どもを理解し、子どもが発する感情や言動をしっかりと受けとめている。	13	9	0	まずは担当の職員がしっかりと受けとめている	
		A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	14	8	0		
		A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	13	8	1		
		A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を提供している	11	9	2		
		A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるようい養育・支援している。	14	7	1	社会と触れ合う機会が増えて欲しい。	
(2)		A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	19	3	0	誕生日のリクエストメニュー、季節にあわせたメニュー、行事食がある。	

内容 評価 基準 24 項目	(3)	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現ができるよう支援している。	19	2	1	予算が増えると良い。
	(4)	A14 居室等施設全体が綺麗に整備され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	15	6	1	
	(5)	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	21	1	0	定期受診のほか随時受診している。
		A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	10	8	4	性教育の機会をもっと増やして欲しい。
	(7)	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	13	7	2	
		A18 施設内の子ども同士の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	15	4	3	
	(8)	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	14	7	1	日にちを決めてカウンセリング等を行っている。
	(9)	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	17	4	1	塾の活用。大学生による学習支援がある。
		A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	15	6	1	高校卒業後の進学率が低い。
	(10)	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	6	11	4	
		A23 施設は家族との信頼関係作りに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	12	9	0	
	(11)	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	15	6	1	

※ 全職員を対象に実施し、29人中22人回答。